木質フロア　施工説明書
—無垢フロア・挽板フロア

施工上のご注意

■施工の前に

- 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工を行ってください。
- **取扱説明書は、必ずお客様にお渡ししてください。**
- 本製品は、室内用です。土足用としては使用しないでください。
- よく水のかかる場所、湿気の多い場所には使用しないでください。
- 本製品は、床暖房部分にはご使用できません。

■ 無垢フロア・挽板フロアの特性

- 本製品は天然木を使用しているため、木目による表情の違いや材色による濃淡のばらつき、斑、葉節、黒筋、入り皮などがみられます。1 枚毎に色柄が異なりますので、施工前に仮並べを行い色柄のバランスを考慮して割付けを行ってください。
- 本製品は天然木のため、空気中の水分の吸放出によって、一般的な複合フローリングに比べ水分や湿気の影響で材の伸縮が起こりやすいという特性をもっています。設計構造、設置場所、施工方法によっては、膨張・収縮による反り、突き上げ、あばれ、床鳴り、割れなどの不具合の原因となることがありますので、以下の施工手順をお守りいただき、施工には十分ご配慮ください。

■ 床材の取扱い

- 床材は絶対に濡らさないでください。また、直射日光は避けてください。
- 床材は水平な状態で保管してください。（立てかけたり、地面に直接置かないでください。）

施工手順

■ ご準備いただくもの

ステープル	1階部・2階部ともに L=38mm以上
接着剤	コニシ KU-928FPボンド （推奨接着剤） ※接着剤使用量の目安は、450～500g/㎡です。

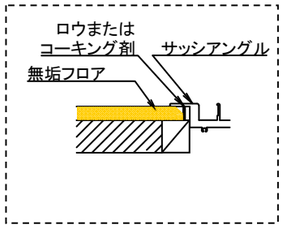
1. 下地の確認

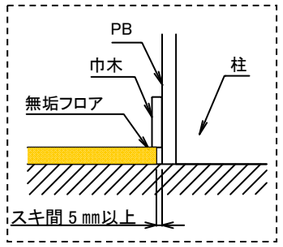
1. 下地材は十分に乾燥させた上で施工を行ってください。
   ⇒ 高含水率の場合、サネ部の突き上げや、変色の原因となります。

2. 下地材は段差がないようにしてください。段差がある場合は、カンナなどで目地払いをして、段差を１㎜以内にしてください。
   ⇒ 施工後の段違いや、床鳴り、波打ちの原因となります。

施工業者様用

2. 周囲の納め方





1. 掃出しサッシ際の納め方
   掃出しサッシに接する木口は、ロウやコーキング剤などでシールしてください。
   ⇒ 結露水などが浸透しやすく汚染しやすいため。

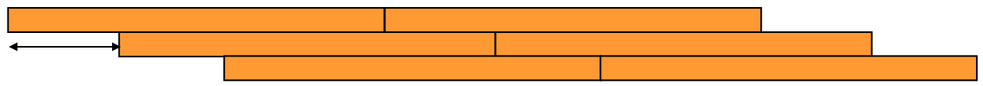
2. 壁際の納め方
   フロアと柱・間柱とのスキ間は、必ず 5 ㎜以上空けてください。
   ⇒ フロアの伸縮による突き上げが発生することがあります。
   ⇒ 床材と躯体との接触によるキシミの原因となることがあります。

3. 敷居・床見切等との納め方
   フロアと密着させず、スペーサー程度のクリアランスを取って施工してください。両端が敷居などで逃げられない場合は特に注意してください。
   ⇒ フロアの伸縮による突き上げが発生することがあります。

3. 仮並べ・割付け

1. 施工前に、色調や木目などのバランスを考慮して割付けを決め、仮並べを行ってください。

2. 継手部は、2 尺（606 ㎜）程度ずらしてください。

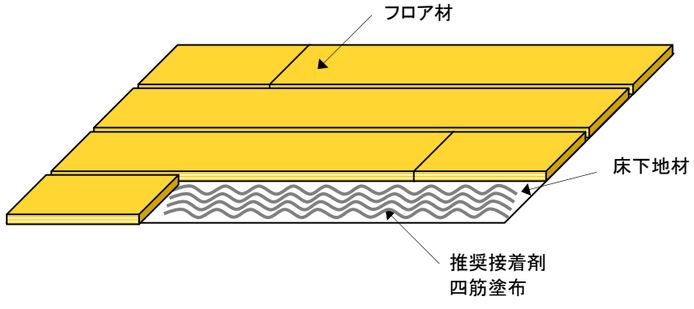


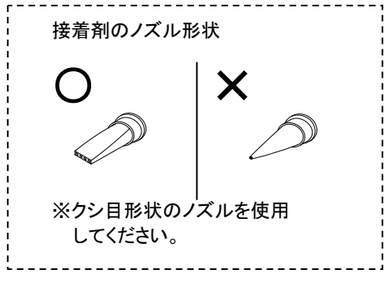
4. 接着剤の塗布

接着剤を床面もしくは下地材に塗布してください。

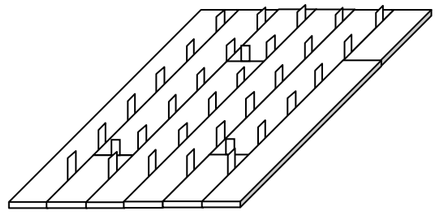
注意

- 接着剤は推奨接着剤をお勧めします。
- 接着剤の塗布量は、450～500g/㎡を目安にしてください。
  ⇒ 塗布量を誤ると、施工後の反り、突き上げ、あばれ、床鳴りなどの原因となる場合があります。
- 接着剤は一度に塗らず、床 1 枚分ずつ塗ってください。
  ⇒ 接着剤が乾燥し、接着不良となるおそれがあります。
- 継ぎ目からはみ出したり、床材表面に付いた接着剤は、速やかにふき取ってください。
  ⇒ 硬化すると取り落とせなくなる場合があります。



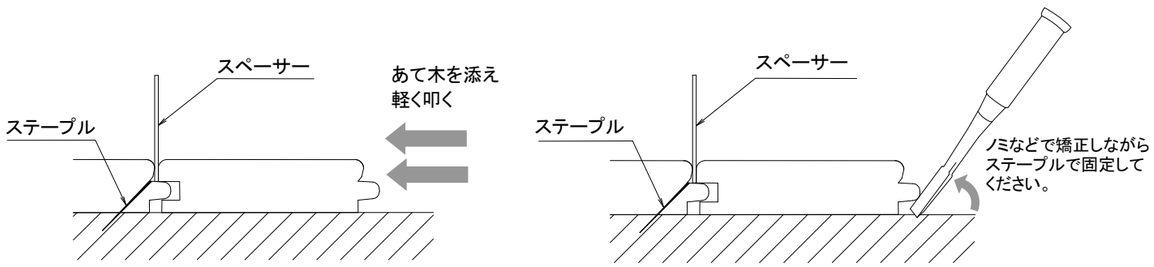


5. 雄サネ・雌サネの差し込み



1. サネ（長辺部および短辺部）には必ずスペーサー（同梱品）を挟み、スキ間を確保してください。（スペーサーはステープルを打つ対面に挟んでください。）
   ⇒ 湿度変化によりフロアが伸縮するため、施工後の伸びを吸収させるために必要です。

2. 雄サネと雌サネの合わせは、フロアの切れ端などであて木を作り、軽くたたき込むようにしてください。スペーサーが手で抜き取れる程度に締め、強くたたき過ぎないようにしてください。
   ⇒ 角材などを使用すると、サネ部を破損させる原因となります。



注意

- 無垢床は製品の特性上、側反り（刀反り）が発生することがあります。反りのため目地が揃わない場合は、ノミなどで矯正しながらステープル固定を行ってください。

6. ステープルまたはブラッドネイルの打ち込み

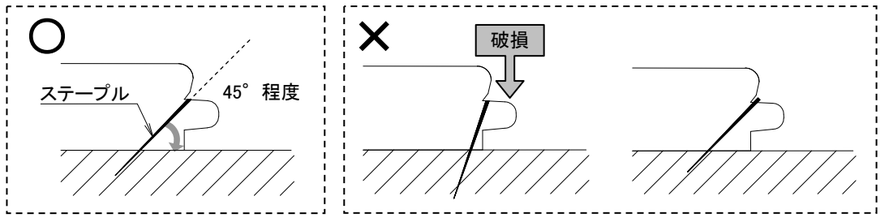
1. ステープルまたはブラッドネイルは、1 階・2 階共にL=38 ㎜以上のものを使用し、長辺部は 303 ㎜ピッチで固定してください。

2. 打ち込みは、雄サネの根元にある溝部分に隠れるように打ち込んでください。

3. 壁際は床材上部からサネ部同様に留め付けてください。

注意

- エアー圧は、試し打ちなどを行い強さを調整してください。
- 頭の出すぎ、沈みすぎに注意してください。
  ⇒ 頭が出ていると、雌ザネが入りにくくなり、フロア表面が膨れる場合があります。また、頭が沈みすぎると、フロア表面の膨れやサネが破損するおそれがあります。
- 打ち込み角度は、45° 程度を目安にしてください。



7. 養生

1. 養生シートで覆う前に
   養生シートで覆う前の床面は、ゴミや砂を掃除機で吸い取った後、よく絞った雑巾でホコリをふき取り、水分を十分乾燥させてください。

2. 養生材の敷き方
   壁際は石膏ボードくずがたまりやすく、床材の導管に入ってしまうと取れにくくなりますので、養生シートは壁際までスキ間なく覆ってください。
   養生中に養生材下に湿気がこもらないように、養生材は通気性のあるものを使用してください。湿気がこもってしまうと、床材が膨張し、浮き上がりなどの原因になります。

3. 養生中のご注意
   養生シート上から液体（お茶・モルタル・ペンキ・雨水など）がかかるとシミになることがありますので、ご注意ください。

4. 養生材の撤去
   内装工事・設備工事（電気・水まわりなど）が全て終了し、脚立や道具を持ち込まなくなってから、養生材を撤去してください。養生材撤去後に、万が一水に濡れた場合は、すぐにふき取って十分に乾燥させてください。濡れたまま放置すると、色ムラ、シミ、膨れ、反りなどのトラブルの原因になります。

■美装作業上の注意事項

1. 仕上げの清掃は、表面の石膏ボードの粉などを十分に取り除いた後、固く絞った濡れ雑巾などでふき取り、ワックスで仕上げてください。

2. ワックスは絶対に直接床の上に流さず、別紙*『木質フロア　取扱説明書』に従い仕上げてください。フローリングの間に多量のワックスが染み込みますと、反り、狂いなどの原因になります。

3. ワックスはご使用の前に、あらかじめ床材の目立たない部分に試し塗りをしてからご使用ください。

4. 工事完了後は雨水に濡れないよう窓の閉め忘れなどにご注意ください。万一、水に濡れた場合はすぐにふき取ってください。濡れたまま放置すると、色ムラ、シミ、膨れ、反りなどのトラブルの原因になります。

注意

- ワックスは推奨ワックスをご使用ください。
  【推奨ワックス：㈱リンレイ　ノンブライト】